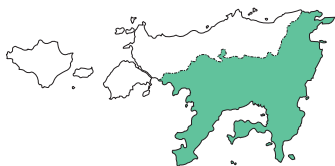


# 議会 だより



## 小豆島町

### No.21

平成23年8月1日 発行



## 1本、1本ていねいに。

こどもセンター園児による田植え

- 審議議案  
一般会計補正予算など ..... 2
- 一般質問  
8名の議員が質問 ..... 4
- 住民の声・町の力 ..... 10

# 坂手～神戸間に

# 定期フェリー便が復活



坂手自治会が中心となって開催された、就航セレモニー

## 6月 定例会

平成23年第2回定例会が6月20日に開催され、一般会計の補正予算議案、母子家庭等医療費支給に関する条例の一部改正条例など4議案が提案され、原案どおり可決しました。また「繰越明許費繰越計算書」など2件の報告がされました。

これより先、4月28日には第2回臨時会が開催され、一般会計の補正予算議案と教育委員会委員の任命への同意、専決処分承認議案1件が、原案どおり承認、可決され、1件の専決処分の報告がされました。

## フェリーPR事業・坂手港整備に870万円

### 補正予算

#### 一般会計(第2号)

追加補正予算額は6千46万9千円で、補正後の予算総額は72億9千886万9千円となります。

今回の補正は、7月から坂手港に就航するジャンボフェリー関連の諸経費や、コミュニティ助成事業、東日本大震災による被災地支援に伴うものです。主なものは、次のとおりです。

#### 総務費関係 小豆島の魅力発信事業

300万円  
・ジャンボフェリー坂手港就航に合わせて、



40回目を迎える『たそがれコンサート』

島の魅力を全国に発信していくと、TV番組の制作を業者に委託するもの。  
コミュニティ助成事業 290万円  
・坂手地区太鼓台修繕 250万円  
・苗羽地区たそがれコンサート活動助成 40万円



活用される協働のまちづくり事業  
(観光ボランティア活動・植樹活動など)

#### 協働のまちづくり支援 事業補助金

120万円  
・当初の見込みより希望団体が多かったため、増額補正を行うもの。

#### 災害支援費

182万5千円  
・東日本大震災に伴う被災地への支援、被災者の受け入れに係る費用など。



石が語る島の歴史

#### 石の歴史シンポジウム 関係費用

272万7千円

#### 観光費ほか

##### ジャンボフェリー就航 関係費用

870万5千円  
・歓迎セレモニー・港通路等補修など。

ひとり親家庭等医療費 116万8千円  
・父子家庭の父親の医療費を公費負担するもの。

・当初の見込みより申込希望者が多かったため再度増額補正するもの。

民生費  
保健医療福祉関係職修学資金貸付金 240万円





**ミュージカル「二十四の瞳」子役オーディション!**  
不朽の名作「二十四の瞳」ミュージカル版の小豆島公演に出演する子役男女12名を募集!

名作の作品化の歴史に名を連ねるチャンス! ふるってご応募ください。

＜子役オーディション 申込み用紙＞

氏名	性別	年齢	住所	電話番号
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番
姓	名	年	町	番

町広報7月号に折り込まれた子役募集のチラシ

**教育費**  
音楽劇「二十四の瞳」  
開催助成金 380万円

・木下恵介氏生誕100周年を記念して、来年3月に実施予定のミュージカルに対し、開催助成を行うもの。

**商工費**  
オリブの魅力創出事業委託料 577万5千円

・オリブや地元食材を利用した新しいレシピ開発や各種イベントを通じ、オリブの普及・啓発を進めるもの。

**町職員の育児休業等に関する条例の一部改正**  
これまで非常勤職員の育児休業は認められていなかったが、法律の改正に伴い、育児休業の取得が可能となったもの。

### 条例の一部改正

**B&G海洋センタープール、テニスコートリニューアル記念事業**  
100万円

・テニス教室やアクアビクス教室を開催予定。



改修工事の終わった、B&G海洋センタープール

**小豆島町保健センター条例の一部改正**  
草壁公民館と併設されていた内海保健センターについて、児童や高齢者の活動拠点施設として整備するため、その名称を廃止するもの。

**母子家庭等医療費支給に関する条例の一部改正**  
県の補助金交付要綱の一部改正により、支給対象に父子家庭の父親等も含めることになったため、町の条例についても改正を行ったもの。

## 4月28日 第2回臨時会

### 補正予算

#### 一般会計(第1号)

追加補正予算額は5千840万円でした。

主な補正の内容は、県の基金事業である地域支え合い体制づくり事業の補助内示を受け補正するものと、保健医療福祉関係職修学資金の貸付金の増額補正です。

主なものは、次のとおりです。

**民生費関係**  
保健医療福祉関係職修学資金の増額 840万円

・貸付対象の拡大により、当初の想定を大幅に上回る申し込みがあり、申込者全員に修学資金を貸し付けられるよう増額補正するもの。



小豆島町国民健康保険条例の一部改正

### 条例改正

**防災行政無線整備工事に係る工事請負変更契約の締結**

契約金額(変更前)	4億5,254万8千950円
契約金額(変更後)	4億4,754万9千900円

### 専決処分の報告



より使いやすい施設に整備

**高齢者地域活動拠点整備事業**  
3,900万円

・福祉活動の地域拠点となる各地区の集会所を必要に応じて改修しようとするもの。

最高限度額の引き上げを行うもの。(町内で対象となる世帯は約20世帯)



教育委員会委員に

### 後藤巧氏を選任



後藤 巧氏(西村)

明田隆雄氏(池田)の任期が5月11日をもって満了となりますので、後任に後藤巧氏(西村)を選任することに決定しました。また、後藤氏は5月12日の教育委員会において、教育長に任命されました。

# 一般質問

6月議会の一般質問において

8名の議員が質問に立ちました。

## 小豆島の医療について

町「新病院を建て、医療・福祉の基盤をつくりたい」



安井 信之 議員

**質問** 県が作成した地域医療再生計画の中で、島の2病院の統合が出されたが、町長は今後、どのような構想をもち、実現していく考えか。

**答弁** 県が島の2病院を診療所に改め、250床程度の総合病院をつくるという提案をした。  
これは現在の人口規模からして、2病院を経営していくことは大変難しくなること、そして、1つの病院にすることで、医師・看護師が確保できるという

ことからである。

内海病院はまだ債務が相当残っており、どのように処理していくかという課題がある。

しかし、医療・福祉の基盤となる新病院をつくるのが、子どもたちに対する我々の世代の責任であると考え

## 町職員の意識向上について

町「まずは私の話を聞く研修を行いたい」

**質問** 新しい施策に対する町職員の共通認識をどのように構築し、PRしていくつもりか。

**答弁** 幹部職員にはぜひ、私が目指している未来像に対しての取り組みを全力でサポートしてもらいたい。若い



島の医療を考えよう

るので、議員各位の理解の下、住民の皆さんへの説明、取り組みに協力していただきたい。

## 献血問題は大切、実態はどのようになっているのか

町「献血事業に対する住民への普及啓発に努めたい」



中江 正 議員

**質問** 香川県、小豆島の献血方法は、高齢化率が高くなり、まともに献血することが少なく、以前は200ccだったのが、現在は400ccである。また、若い子ども連れで参加できる体制はどのようになっているのか。あらゆる手を尽くし、人命を守る体制が必要ではないか。

**答弁** 献血は、健康意識を高める意味では大事な事業である。事業の実施自体は日赤が行

い、香川県民は年々献血者数が減少し、特に10代から20代の減少が見られる。小豆島に来る移動献血車の回数が減少、小豆島町は平成22年の献血者数は400名で半数が移動献血車である。献血推進は、普及啓発、地域職員およびボランティア団体の組織の育成等ライオンズクラブの方は広報活動に協力をいただいている。なお、子ども連れの方は、受付職員が預かり対応もしている。

献血方法は、複数の献血者から血液を患者に輸血すればウイルス感染や副作用発生のリスクが高くなるため、



一人でも多くの献血者を

より少ない献血者から400cc献血を推進し、200cc献血は香川県献血ルームのみ実施となり移動献血車では限りがある。高松献血ルームの献血の推進も図りたい。





## 49災害・51災害を 風化させないため冊子を作るべき 町「防災に役立つ冊子を作りたい」



森 崇 議員

子を後世に残すべきだ。新内海ダムの必要性にも結び付くもので大切だと思うが。

質問 49災害・51災害から40年近くになる。雲仙普賢岳の大火砕

流からは20年を数え、市長は式辞で「風化させない」と決意を述べていた。私は49災害・51災害はあの戦争にも匹敵する経験で風化すべきでないと思う。一部の経験でなく本格的に語り継ぐ冊



災害の記憶を風化させないために

## 貝や魚の多い豊かな内海湾に 町「海の貧栄養化について、 専門家とも意見交換をする」

質問 小豆島は「きれいなところが一杯ある」と町長がいつも言っている。

内海湾も貝や魚の多い豊かな海にしないでほしい。瀬戸内海と内海湾を運河で繋ぐマイナスとプラスをどう考えたら良いのか。魚付き保安林とも言うが、山や畑をどう考えているのか。

答弁 現時点では貧栄養化が課題となっておりチッソやリンが不足



答弁 過去を振り返るだけでなく、これから防災に役立つ観点で冊子を作ることにはしたいと思う。防災計画の見直しも含め、各自治会長との意見交換の場も持ちたいと思っている。

## 小豆島町の防災対策について 町「防災計画の見直しを行う」



柴田 初子 議員

質問 小豆島町地域防災計画が平成21年に作成されているが、①避難場所の見直しが必要ではないか。②緊急時に各課が迅速に対応が可能か。③町の防災の日の訓練を一地区でなく、子どもたちを含めた地区ごとの訓練ができないか。

答弁 ①今後予想される災害規模からすると、今の計画では不十分である。見直しをしたい。避難場所についても的確でない所も多数あるし、避難ルートも見直しが必要である。②行政の初動態勢は、マニュアルを作成しているが、実際災害が起きた

時、その通りに行動できるかどうか、色々想定して訓練をしたい。③現在7地区が防火、防災訓練を自主的に行っている。今後、子ども参加の訓練を各地区と相談して実施していきたい。

教育現場では、防災マニュアルを定め、保育所、幼稚園は毎月、小・中学校は年数回の

## 被災者支援システム導入の予定は 町「導入しなくても対応できる」

質問 地震や台風などに起因する災害被害者を支援するためのシステム導入予定は。

答弁 小豆島町の場合、住民の家族も少なく、被災状況について把握することは難しくな

避難訓練をしている。職員に対しては、日ごろから迅速な判断、避難誘導ができるように指導している。



昨年の防災訓練



ごみ袋料金の値下げと形状の改善を  
町「値下げは考えていないが、形状の改善は行う」



村上 久美 議員

形状改善をすべきでは。

答弁 ごみ袋料金の値下げは考えていない。形状の改善は図るが11月頃になるのでは。

質問 ごみ袋料金は、原価の5倍であり、土庄町の倍の値段。広域処理で人口数もほとんど変わらず、何でも公共料金の負担を強いるのではなく、くらし応援のごみ袋料金の値下げを。



価格差のある2町のごみ袋

県下一多い国保基金を充て国保税引き下げを  
町「基金は赤字補てんに使う」

質問 町は国保の赤字に基金を活用したいとし、一方高くないとする国保税は、6億円の基金は1世帯当たり県下で一番多い23万円余り保有。21年度から一

般会計からの国保財政安定化支援繰入をストッパ。これを再開し、基金を活用すれば国保税引き下げは十分可能では。

答弁 基金は、国保財政の赤字補てんに。一般会計からの繰入は国保税引き下げ財源には不適当。

より効果的な  
有害鳥獣対策を  
町「小規模防護施設に  
対しても補助を行う」

質問 群れ出るシカを一網打尽にする方法で、小屋に監視カメラと遠隔操作でネットを落とし捕獲する「ドロップネットわな」や補助事業に該当しない個人に對する支援制度を。シカ肉の処理加工業者に對する販路開拓の支援を。

答弁 当年度にドロップネットわな同様の囲いわな2基を設置し取り組みを進める。補助対象にならない個人支援は、本年度から2戸以上の農家に対し補助される。シカ肉販路開拓支援等は困難である。

合併6年目の現状は  
町「合併して良かったが、  
次のステップを目指す」



大川 新也 議員

次回のステップを目指す」

も両地区で異なったまま経過している。数多くの課題に對して今後の対応は。

答弁 合併して良かったと思う。しかし、まだ両地区の壁を越えてないものが数多くある。次のステップを目指していきたい。ごみ収集は、全面委託の方向で進めるべきだ。

質問 合併後5年がたち、町の土台はある程度できたと思う。今年からは、次のステップへ進まなければならないと思うが、現状は。今でも住民は事あるごとに「内海は」「池田は」と会話の中に出てくる。いつまでも垣根が越えられない。一例としてゴミ収集にして



次の一步を踏み出そう

想定外災害の対策  
の見直しは  
町「津波の大きさに  
対応した避難場所  
を設定する」

質問 東日本大震災から3か月、未だ復興の目途が見えてこないが、我が町も「対岸の火事」ではなく想定外災害時の対策の見直しが急務

ではないか。まず被災時の対策本部の設置場所をどこにするのか。また町内教育施設で、2校園が津波想定区域に入っているが、防災計画、危機管理マニュアルは、設定できているのか。

答弁 被災時の対策本部は、耐震性、情報収集面から池田保健センターを考えている。教育施設は、津波の大きさに對した避難場所を設定し、迅速な判断、避難誘導できるよう努める。



避難場所の確認を



## 震災復興支援と防災計画の見直しを 町「避難場所、経路の見直しを行う」



鍋谷真由美 議員

**質問** 東日本大震災の支援の取り組みは。防災計画の見直しと住民への周知を。

**答弁** 福島県から2家族受け入れ、職員1名を宮城県東松山市に派

遣、岩手県大槌町へ支援物資届けなどを行ってきた。避難場所、経路などの見直しを行う。



大槌町に届けられた支援物資

## 学校統廃合は住民の理解と合意を 町「小学校は存続、中学校は統合したい」

**質問** 学校統廃合は子どもの教育と地域社会の存続にかかわる。住民と統廃合の是非についてよく話し合い、合意を尊重することが不可欠だ。今後の取り組みは。

**答弁** 小学校はでき得る限り地域の中で存続したい。中学校はできるだけ早く統合に向けての次のステップを踏みたい。高校は、1つにする香川県の方針に賛成だ。

## 内海ダム再開発 工事について

町「大多数の住民は早期完成を望んでいる」

**質問** 強制収用までしてすすめる錦の御旗である「町民の80%の賛同」が、室蘭工業大学大学院の丸山博教授が行ったアンケート調査では、神懸通の住民の回答者75・7%（111人中、84人）が「正しいとは思わない」と回答。強行した工事で騒音、振動など被害がある。弥生時代の荒神遺跡に残土を山積みにしており、防災上からも撤去すべきだ。

**答弁** 大多数の住民がダムの早期完成を望んでいると考えている。防音壁の設置、散水などの対策を行っている。埋蔵文化財を直接改変するものでなく問題ないと聞いている。

## 小豆島の歴史と島教育について 町「貴重な資料の保存に積極的に取り組む」



谷 康男 議員

要な資料であれば文化財保護審議会委員をはじめ、学識経験者のご意見を伺いながら、資料の保存について考えている。

## 小豆島町への企業誘致について 町「これからは産業誘致にも取り組む」

**質問** 小豆島には一次産業から三次産業までバランスよく産業が営まれているとあるが、現在の各産業において、小豆島の若者の求人

**答弁** 小豆島の歴史、伝統、文化を後世に残していくことは大切なことである。民家をはじめとしていろんな貴重な歴史資料が散逸するおそれがあるので町としても積極的に取り組んでいきたい。



新しい産業・雇用の場の創出を

**答弁** これまで小豆島町の場合、食品産業をはじめとする地場産業が活力を守り通している。新規の企業誘致について必ずしも目指すものでなかった。これからは、子ども、孫たちが島で働けるような雇用の場の確保、新しい産業の誘致、地場産業の振興に全力で取り組む。



島の歴史を知る貴重な資料の整理を

# 委員会活動報告

## 〈教育民生常任委員会〉

平成23年5月24日委員会を開催し、町長、副町長、内海病院職員の出席を求め説明を受けた後、各委員より質疑、意見を求め、下記意見を出しました。

### 全国的な医師・看護師不足

### 小豆島の現状

- 人口の減少  
現在約31,000人  
→25年後(推計) 19,800人
- 少子高齢化  
高齢化率約35%  
→25年後(推計) 50%



### 土庄中央病院の抱える課題

- 看護職員の不足と高齢化。  
(50歳代33%)
- 患者数の減少と収支の悪化。
- 建物の耐震化。



### 内海病院の抱える課題

- 医師が急激に減ったことにより現場医療者が疲弊。患者数の減少。
- 専門医の退職により、島外への救急搬送が急増。
- 医業収益の減少による収支の悪化。

### 質の向上と安定した医療の提供に向けて

＜平成23年3月23日＞

香川県健康福祉部が  
「小豆医療圏の医療を考える検討委員会」を開催  
〈出された主な意見〉



- ① 2病院を早急に統合し、救急機能を集約させる必要がある。
- ② 住民に「地域の医療は地域の住民が守る」意識をしっかりと持ってもらおう。

- 少子高齢化が進む中で小豆島の人口規模で2つの公立病院の経営をしていくのは非常に難しい
- 全国的に医師や看護師の確保が難しくなっている中で、小豆島というハンディのあるところにレベルの高い医師を2つの病院に確保していくことは難しい

### 教育民生常任委員会としての意見は……

1. 今後の小豆島の人口や患者数の推計、両病院の経営状況から考えると、**2つの病院の統合を前提として、国の助成制度を活用するよう手続きを進める**ことについては、肯定的な意見が大半でした。  
しかし、議会や住民に対する説明が不十分であり、**まず住民の意見を聞くべき**との意見もありました。
2. 病院問題については、医療スタッフはもとより、**町と議会が情報交換を密にし、住民にとってより良い選択をすべき**であり、今後は**積極的に情報交換の場を設けていく**こと。
3. 病院の統合については、2町の合意が前提となるので、**2町の町議会の間でも密接な意見交換を図るべく努力すること**。

※ 6月10日には香川県医療審議会が2病院の統合を柱とした県地域医療再生計画案を了承し、国に提出しました。



愛知教育大学附属名古屋中学校による

## 中学生議会

が開催されました。



毎年夏に小豆島を訪れ、島の現状や課題を研修する取り組みを行っている愛知教育大学附属名古屋中学校の生徒を議員に見立てた、中学生議会が6月30日に開催されました。

議会では、同校の生徒代表18名が現地調査で浮かんだ疑問を、町長に質問しました。

島外の子どもから見た島に対する素朴な疑問や鋭い質問が飛び交い、さらに提案も出され、充実した審議が繰り広げられました。

## オリーブをいかに生かすか

**島のオリーブ産業が、島や島民にもたらす影響とは。**

④ 雇用の機会になったり、経済的な収入、観光の呼び水になった



オリーブについて質問

り、大変プラスの影響を及ぼしている。

**ど**のようにオリーブを全国・世界に広めていくのか。

④ オリーブだけでなく、小豆島の良さを全国、世界に広めていきたい。例えば島で国際会議を開いたり、外国のオピニオンリーダーの方に来てもらって、島の良さを宣伝してもらうなど、色々な仕掛けを考えていきたい。

**島**民はオリーブに対してどのような思いをもっているのか。

④ オリーブのおかげで今の小豆島があると思っており、非常に大切にしている。



中学生の質問に答える町長

**オ**リーブでどのくらい利益をあげているのか。その苦労は。

④ オリーブ関係製品の全体の売り上げは年間60億ほどである。儲けている会社もあるが、そうでないところもあり、オリーブで利益をあげるのは容易なことではない。何千年もの歴史ある外国産のオリーブと対抗するならば、どういった商品で勝負するかということのみならず、知恵を出しあっていきたい。

**降**水量によってオリーブオイルの味が変えるということを知っていた。それならば、ビニールハウスなどを使

って、気候の管理をすれば、色々な味のオリーブオイルができるのでは。

④ オリーブの生育には日照時間が大事なので、ビニールハウスなどは難しいのではないかと。

**こ**れから先、オリーブが他の地域でも栽培されてくると、小豆島も影響を受けるのでは。



鋭い質問も出ました

④ 九州の方からオリーブが出てくるこの2、3年のうちに「小豆島のオリーブ」を徹底的に印象付ける。

**品**質のいい小豆島のオリーブ製品を、

このほかにも、「内海ダムについて」や、「町の財政」「町の防災対策」などについての質問が出されました。

④ 提案はまさにその通りであり、本物のブランド力をつけるには、島の生活の一部にオリーブを取り入れないといけない。今、少しずつ島の中にもオリーブオイルを使った料理が食べられる店ができてきている。

富裕層の行くような高級レストランに置いてもらって、「この料理に意外に合う」といった口コミを広げてもらえばいいのでは。



### 予告

小豆島町子どもたちも  
**小・中学生議会を開催！**

○中学生議会（内海中3年）  
9月下旬開催予定

○小学生議会（池田小6年）  
平成24年1月下旬開催予定

# 住民の声

Vol.21



## 椿の里と不法投棄

半田 辰也  
(当浜自治会総代)



静かにたたずむ『椿の里』

私の住んでいる家の前は、国道436号で、車の通行量が非常に多いところです。当地区は、国道を境に、海側と山側に分かれて住宅がある所です。

当地区には古くから、旧国道の海側に、ヤマツバキの群生林「椿の里」という所があります。

また、海からの潮風を受けながら、見事に自生している町の天然記念物でもあります。

そこで椿を  
観賞しながら、  
休憩もできま  
す。



ところが周  
りをみれば、  
食べ物のかすや、ジュース缶、  
雑誌、弁当の容器などをその  
まま放置しています。あまり  
にも目に余るところがあり、  
これではいけないと思い、自  
治会住民が助け合いの心を持  
ち、ごみ拾い、草刈、掃除の  
活動をしたところ、ごみを捨  
てる人が少なくなりました。

よって色々自治会で考えた  
ところ、「**不法投棄、ゴミを捨  
てるな**」という看板を設置、  
取り付けることにしました。

その結果、今ではごみを捨  
てる人もなくなり、ウォーキ  
ングやジョギングをしている  
人から「ゴミがなくなつた」  
と喜ばれています。これから  
先一人ひとりが気を付けてく  
れば、椿の里も昔のように  
きれいになることと思います。



## 星城少女バレーボール

(バレーボール)



星城少女バレーボールクラブは、この4月から星城、安田、苗羽の3つの小学校からバレーボールの好きな1年生から6年生の子どもたち15人が集まって活動しています。

活動内容は学年によって異なりますが、高学年は週3日、夕方5時から7時半まで練習し



ています。先日も県大会出場に向かって熱の入った練習をしてきました。

低学年はこの10月のソフトバ

レーボール大会に向けて週2日(火・金)の練習を頑張っています。

またバレーボールを通じて礼儀・作法はもちろん、先輩方々から受け継いだ「**輝け笑いの星**」を背にチームワークの大切さを学んでほしいと思っています。

現在クラブでは、部員を募集しています。バレーボールに興味のある子、体を動かしたい子、一度お気軽に星城小学校の体育館を覗いて見てください。お待ちしております。

## 編集後記

新メンバーにより  
始まった広報編集委  
員会も1年が過ぎま  
した。

この間、いかに議  
員の一般質問を住民  
に分かり易く伝える  
か、悪戦苦闘してき  
ました。議員が訴え  
たいことを的確に伝  
えることが、これほ  
ど大変だとは思って  
いませんでした。

当然、議員自身も  
原稿作成には、苦勞  
の跡があり、無駄に  
はできません。これ  
からも今までの以上  
の「議会だより」の充  
実を目指して、委員  
全員頑張っていきた  
いと思います。

今後の「議会だよ  
り」にご期待くださ  
い。



本紙に対する  
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108